

おそまつ 卒業論文

革新的アプローチ

ぬるぽ研究室
0xdeadbeef + 卒論 noob

第 1 章

論文作成

論文発表では、研究を発表する際に概要を作成しなくてはなりません。でも、Latex で書くと記述が即時反映されず、コンパイルをしてみたらエラーで落ちることも多々あります。LSP の精度もいまいちで、クリティカルなエラーがコードに対応していないこともあります。Typst [1] は、そのような問題を解決するために開発されました。

Latex にうんざりしたそこのあなた。Typst というモダンな組版ツールを使ってみませんか？ 必要な設定は、`conf.typ` に記述されています。

1.1 使用方法

とっても簡単です。 `conf.typ` に記述されている設定を読み込みます。

```
1 #import "conf.typ": conf
```

typ

設定に引数を与えて有効化しましょう。 `conf.with` を使います。

```
1 #show: conf.with(  
2   header: [卒業論文概要 ( hoge 大学 fuga 部 bar 学科 めるぽ研究室 ) ],  
3   title: [革新的アプローチ],  
4   author: [卒論 noob],  
5   id: [0xdeadbeef],  
6 )
```

typ

ちなみに、Typst のロゴは 図 1 の通りです。

第 2 章

Typst のここがすごい！

2.1 とくにすごい

1. 高速なコンパイル
2. 可読性の高い記法
3. プレビュー機能
4. Forward search, Inverse search

第 3 章

Typst のここがしんどい

- ・ ドキュメントが少ない
- ・ 日本語のライブラリが少ない

ただし、これらの弱点は日本語版公式ドキュメント [2] によってある程度克服できます。

第 4 章

Latex との文法比較

Latex の文法を Typst で書き換えると、以下のようになります。

Latex	Typst
<code>\textbf{strong}</code>	<code>*strong*</code>
<code>\emph{emphasis}</code>	<code>_emphasis_</code>
<code>\texttt{print(1)}</code>	<code>`print(1)`</code>
<code>\url{https://typst.app}</code>	<code>https://typst.app/</code>
<code>\label{intro}</code>	<code><intro></code>
<code>\ref{intro}</code>	<code>@intro</code>
<code>\cite{humphrey97}</code>	<code>@humphrey97</code>
itemize environment	- List
enumerate environment	+ List
description environment	/ Term: List
figure environment	figure function
table environment	table function
<code>\$x\$</code>	<code>\$ x = y \$</code>

他にも対応があるので公式のドキュメントを参照してください。



図 1: Typst のロゴ

第 5 章

モード

Typst は LaTeX と異なり、モードを持ちます。モードには、以下の 3 つがあります。

Code プログラムコードを記述するモード。`#` で始まる行はコードとして解釈されます。例えば `#(1 + 1)` は 2 と評価されます。

Math 数式を記述するモード。 $\$$ で囲まれた部分は数式として解釈されます。例えば $\$-x\$$ は $-x$ と表示されます。

Markup マークアップを記述するモード。`[]` で囲まれた部分はマークアップとして解釈されます。例えば `[*Hello*]` は **Hello** と表示されます。

第 6 章

おわりに

いつまで Latex つかってんだよ！

参考文献

- [1] M.Haug と L.Madje, 「Typst」. [Online]. 入手先: <https://typst.app/>
- [2] T. J. Community, 「日本語版 Typst のドキュメント」. [Online]. 入手先: <https://typst-jp.github.io/docs/>